

スポーツ祭東京 2013 カウントダウン 地元開催競技を 盛り上げよう!



清瀬駅北口のカウントダウンボード (7月16日撮影)

「第68回国民体育大会」と「第13回全国障害者スポーツ大会」が9月28日から10月14日の期間、味の素スタジアムをメイン会場として都内全域で各種競技が行われます。ほのぼのエリア各市の動きを追ってみました。

炬火式やさまざまなイベント

東京で国体が開催されるのは昭和34年の第14回大会以来、何と54年ぶり。9月28日味の素スタジアムで総合開会式が開催されますが、オリンピックでの聖手にある炬火（きま）が会期中選手の活躍を見守ります。この火は各区市町村で採火したものを一つに集め、炬火台に点火されるのです。



上)丸山山西東京市長がまいぎりを使って。下)炬火台へ佐々木議員とともに灯しました。

西東京市では6月28日に市役所田無庁舎市民広場で炬火採火式が行われました。「まいぎり」という火おこし道具を使って、丸山浩一西東京市長が参加者の目の前で火起こし。す

ると、またたく間に煙が立ち見事火が起きました。それを炬火トーチから炬火台へ。西東京の火が灯りました。8月から9月にかけて小平、東久留米、東村山でも採火式が行われます。いよいよ国体機運も盛り上がってきました。

各市で開催される正式競技はバレーボール成年女子（小平市）、バスケットボール少年女子（東村山市）、バスケットボール成年男子・女子（西東京市）、サッカー女子（清瀬市）、山岳（リード・ポルダリング）（東久留米市）。昨年は各市で国体本番を想定したリハール大会を開催。また今年6月に入ってから開催100日前イベント等を実施し、バレーボールやバスケットボールで日本を代表



ゆりーともいこいーな（西東京のマスコット）も大喜び

する選手たちのトークショーや教室を開いた市もあります。

7月6日には東村山市民スポーツセンターで国体を盛り上げようと「東村山市カウントダウンイベント」が開催されました。同市の開催競技であるバスケットボールのエキシションゲーム（東海大学対拓殖大学）。また、デモンストレーションとしてのスポーツ行事（デモスポ）はティーパーが開催されることから、元プロ野球選手、谷沢健一さんをスペシャルゲストに迎えて「ティーパー体験コーナー」が開かれました。ティーパーはピッチャーのいない球技、バットグレイの上に置いたボールをバットで打つもの。元気なティーパーたちがわれ先にチャレンジして、谷沢さんの指導を受け大いに楽しんでいました。

屋外の駐車場スペースではエア遊具の巨大な。ゆりーとふわふわが子どもたちに大人気。市内の「とんぼサポーター2」の outlet では国体のマスコットキャラクター「ゆりー」との細工作りに子どもたちが熱中。ピンを砕いて焼いたガラスからキラキラのゆりーとが出来上がりました。

全国からのお客様をおもてなし

国体は出場する選手だけではなく、関係者や応援の人々が全国からやっ

てきます。受け入れ側としては市に挙げての事業となり、実行委員会等に加えて数多くのボランティアがサポートします。おもてなしの企画も市の特産品を活かしてさまざまなのが準備され、地元を知ってもらうチャンスでもあるのです。

サッカー女子開催の清瀬では1回戦と準々決勝、3位決定戦が行われます。市内の小学校と市民団体が花を育て、会場を花いっぱいでおもてな



谷沢さん指導のティールボール体験教室。東村山カウントダウンイベントの風景（東村山市民スポーツセンター）

し。特産の人参を使ったケーキも登場します。

小平市体育課国体担当の櫻井健さん小平の取り組みを伺いました。

小平では成年女子のバレーボール競技、1回戦と準々決勝、5・7位決定戦が開催されます。毎年Vリーグトップのプレミアリーグのチームも出場しているという人気競技。入場無料先着順ですが、満席が予想されるので、整理券配布制を予定しています。参加

選手に地元産品のおみやげを持って帰ってもらうことはもちろん、当日の来場者へ向けて、3階に無料ドリンクコーナー、噴水前広場には大画面でバレーボール試合を楽しめるパブリックビューイング、飲食、物販販売のブースなどが設けられます。また、市内の企業や団体も国体グッズの提供に多数協賛。市とFC東京のマスケットのぶるべーと東京ドロンパ、そしてゆりーとがコラボしたタオルなどバラエ



家より大きいゆりーとふわふわ



東村山の団体とんぼサポーター2が手作りした顔出しボード（右）と表彰台（左）



ピンを抜いて、貼ってガラスのすてきなゆりーとを作りまし



左）小平市の国体グッズタオル、ファイル、ボールペン、定期セットなど。肩掛けバッグは、武蔵野美大生のデザイン。

ティ豊か。市内の大学もボスティーや看板のデザインで協力。これから町内の夏祭りやイベントでもPRして、市民一丸となって、地元団体を盛り上げていきたいものですね。

各市の開催競技日程・会場

小平市

バレーボール成年女子

9月29日（日）・30日（月）

小平市民総合体育館

東村山市

バスケットボール少年女子

10月4日（金）～7日（月）

東村山市民スポーツセンター

西東京市

バスケットボール成年男子

10月5日（土）・6日（日）

バスケットボール成年女子

10月4日（金）～6日（日）

西東京市総合体育館

清瀬市

サッカー女子

9月30日（月）・

10月1日（火）・3日（木）

下宿第三運動公園サッカー場

東久留米市

山岳（リード・ボルダリング）

10月4日（金）～6日（日）

東久留米市スポーツセンター

国体成功に向けて山岳競技をサポーターします

東久留米市では全国から300名もの選手が参加する山岳競技（クライミング）が開催されます。「めったに見られない珍しい競技なので、ぜひ見ていただきたい」と市の担当から。この競技をサポーターするのは地元、東久留米市山岳連盟。その練習日を訪ねてみました。

クライミングのためのウォール（人工壁）が常設されている公営施設は昭島市や江東区など市内でも数か所しかなく、10年前常設された東久留米市では、スポーツセンター開設当初から、東久留米市山岳連盟にクライミング部ができて活動しています。

クライミングに出場します

同クライミング部の高校2年生、木暮花さんは東京都代表として、少年女子の部で出場します。現在夏休み返上で猛練習中。始めたのは小学3年の時。スポーツセンターのウォール体験クライミングを受けたのがきっかけ。以来9年にわたり、この場所で成長し、鍛えられて、晴れの国体出場。

「腕と脚の力だけではなく、腹筋や背筋の力も必要なので、ジムにも通っています。外で岩登りも

現在小学1年〜中学3年生のジュニア会員が35名、高校生〜70代の大人会員が32名、週1回〜2回スポーツセンターでクライミングを楽しんでいます。取材日にも、ジュニアの子もたちが大人会員の指導とサポーターを受けて14メートルの壁に果敢に挑戦していました。東京都代表選手の木暮花さんもここではお姉さん指導員です。

10月4日から6日の国体本大会では、屋外に特設された15メートルのウォールでロープを使って行うリード競技、屋内に大会時だけ特設される5メートルのウォールでボルダリング競技が行われます。ボルダリングは、

することもあります。課題を与えられ、何回もやって達成できた時は本当にうれしい。勉強との両立は大変ですが、地元の方たちの期待に応えたいです」

ガンバレ！木暮さん。応援します。

クライミング中の木暮さん



スポーツセンター常設のウォールで練習中

ロープを使わずに、のしかかるような壁面を登る難易度の高い競技ですが、最近国内でも人気のジムスポーツとなっています。

山岳連盟の皆さんは、大会当日、ビレイヤー（ロープで選手の安全を確保する）・審判・選手の隔離監視・誘導・ビデオ撮影・荷物運搬などの役割を分担して大会をサポートします。

選手との隔離監視などという係があるのは、後出の選手に有利にならないよう、公平を期すためのもの。選手は、最初に会場の壁面を観察する一定時間を与えられますが、あとは別室で自分の出場時間までルート（手や足を動かす手順）を考えながら待機し、他の選手の競技を見ることは許されないルールがあるのです。携帯電話やスマホの持ち込みも禁止とか。

「クライミングの魅力は何ですか」と、クライミング部部長の藤重丈敏さんにお聞きしたら、「達成感かな。



右) 国体で使用される屋外のウォール
下) 藤重部長と松岡さん



上の方では実際怖いんだけど、集中してゴールまで登れた時、克服したという達成感がある」と。そして、終わった後のビルが美しい！。

8月25日には、ジュニアの部と視覚障がい者の部によるデモンストラーション競技がありますし、毎月第2土曜日の10時〜12時には、一般の人でも体験できるニュースポーツデー・クライミング体験（シューズやハーネスなど貸出あり、体験料100円）もあるので、興味のある方は東久留米市スポーツセンターを覗いてみてはいかがでしょうか？

（取材協力 東久留米市山岳連盟 藤重丈敏さん・松岡伸郎さん・高橋正樹さん・矢野康之さん）